

令和2年度市政経営に係る市長方針の評価

滝沢市事務事業実施に関する基本原則を定める規則第6条に基づき、令和2年度市政経営に係る市長方針を以下のとおり評価します。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の全国的な拡大をうけ、当市においても感染拡大の防止のほか、企業等への経済支援などの対策を講じたところです。令和2年度に引き続き、令和3年度についてもワクチン接種のほか新型コロナウイルス感染症への対応を進めることとしています。

なお令和2年度市政経営に係る市長方針については、具体的な展開に関する評価の観点から、方針内の2つの大きな要素に関してそれぞれ評価を実施します。

(1) 健康づくりの推進をはじめとした「幸せづくり」の取組

方針（方針書より一部抜粋）

生きがいややりがいのある充実した人生を送るための、健康づくりの推進をはじめとした「幸せづくり」に向けた取り組み、また、IT関連産業の誘致や子供の教育・保育の質の向上させることなどを中心とした若者定住に向けた取り組みについて、各部が連携を図りながら、さらに加速してまいります。

評価【一定程度進展している】

健康づくりの推進においては、スマートウエルネスシティの実現を目指して、健康づくり無関心層の健康リテラシー向上及び健康づくりへの取り組みへの参加促進を目的とした「健幸アンバサダー養成講座」、健康づくり活動を可視化し活動の継続につなげる「滝沢市健幸ウォーキングトライアル事業」、健康づくりに取り組む団体を支援する「滝沢市健康づくり宣言参加団体支援補助金」を新たに創設・展開し、健幸（健康）づくりへの取組みを挙げました。

一例として、健康づくり宣言団体である元村東自治会のグランドゴルフ活動で支援補助金が活用されるなど、地域・団体・個人が一丸となって健康づくり活動が展開されていることから、今後においてもこうした機会を後押しし、健康づくりの輪の拡大を図ってまいります。

なお、滝沢地域社会に関するアンケートでは、健康づくりに取り組む姿勢はこれまで上昇傾向にありましたが、令和2年度においては下降に転じました。この要因については、新型コロナウイルス感染症の拡大等による行動の制限や自粛等の影響が考えられますが、改めて社会の影響や動向を注視しながら健康づくりをはじめとした幸せづくりを進めてまいります。

(2) 「おもてなしの心」「人とのつながり」「チャレンジ」を念頭においた市政経営

方針（方針書より抜粋）

行政サービスのさらなる充実や、社会・地域課題の解決に向けて、官民を問わずにチームワークなどをはじめとした「人とのつながり」を創り、新たなことに対してチャレンジをしていくこと、また、職員としての自覚と誇りを持って自ら考え行動するとともに、市民との信頼関係の土台として職員全員が「市民の生活が第一」であることをしっかりと認識し、窓口などをはじめとした市民との接点においては市民に寄り添ったいわば「おもてなしの心」を持つことが非常に重要であると捉えており、このことを念頭に置きながら市政の経営を進めてまいります。

評価【進展している】

行政サービスの充実のもと、職員のおもてなしの心を育成するため、滝沢市人材育成基本方針に基づき策定したハンドブックを活用し、接遇向上のための研修を開催するなど、市民の信頼を構築

する土台づくりを進めました。窓口での対応など市民と接する機会においては、このおもてなしの心の実践と併せ、新しい生活様式に対応した行動を心掛けました。

新型コロナウイルス感染症の拡大は、市の特徴の一つである学生の生活環境へも大きな影響を与えていることから、市としての支援と新たなチャレンジとして、学生を会計年度任用職員として雇用する取組みを行いました。各部等の協力のもと学生の受け入れを進めながら、実際の事業実施においては、学生の目線を取り入れるなど、職員として、また学生としても新たなつながりを形成することが出来ました。

今後においても、本取組みと同様、官民間わすれ人とのつながりを拡げ、社会・地域の課題に対してチャレンジする市政経営の推進を図ってまいります。